

神奈川県ボランティア活動推進基金審査会

平成26年12月20日 14:00～19:50

(開会)

(基金事業課長から開会の説明)

- ・中島智人委員が欠席。
- ・本日の流れ
 - ・ボランティア団体成長支援事業とボランティア活動奨励賞の選考。
 - ・ボランティア団体成長支援事業は、プレゼン審査と結果発表も含め18時終了予定。
 - ・ボランティア活動奨励賞の選考は、19時50分まで。

(審査会長から開会の宣言)

- ・平成26年度第4回ボランティア活動推進基金審査会
- ・率直なご意見をいただき公平な審査をする必要があるため、神奈川県情報公開条例第25条第1項第1号及び第2号に該当するため非公開。
- ・3階で行われるプレゼンテーション審査は公開

(審議事項1 平成27年度ボランティア団体成長支援事業選考)

(基金事業課長から以下について説明)

- ・ボランティア団体成長支援事業の応募状況(資料2)
- ・協働事業負担金の来年度予算額と採択数
- ・提案団体と利害関係のある委員について。

(事務局から以下について説明)

- ・幹事会事前調査結果(資料2～4)

(委員による審議)

- ・平成27年度ボランティア団体成長支援事業への提案事業に対するプレゼンテーション審査時の確認事項について検討

(プレゼンテーション審査)

- ・平成27年度ボランティア団体成長支援事業への提案事業に対するプレゼン

テーション審査

（委員による審議）

- ・平成27年度ボランティア団体成長支援事業への提案事業に対するプレゼンテーション審査の結果を受け、各提案事業について選考の可否等について審議
- ・結果発表の際のコメントについて、各担当委員同士の間でそれぞれ作成。

（結果発表）

【長坂会長】 どうも長い間お待たせしました。申し訳ありませんが1件しか採択できないものですから本当に苦労しました。喧々諤々の議論。発表させていただきます。

関内イノベーションイニシアティブ株式会社、このプロジェクトを採択させていただくことにいたしました。ただし、後で説明しますようにいくつかのお願いがございます。これからもう一度話し合いをさせていただくということでございます。

株式会社ファンドレックス 本当に残念ですが・・・今回は見送らせていただくということであります。

特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター 非常によい御提案でしたが残念ながら今回は採択させていただきますませんでした。

結果は以上のとおりでございます。これからそれぞれ担当者から審議の内容について御報告させていただきます。

宜しく申し上げます。

【基金事業課長】 ありがとうございます。次にNPO支援機関の専門力強化および、NPOと支援機関のマッチングによる中長期計画策定支援について中島孝夫委員からコメントをお願いします。

【中島（孝）委員】 それでは私の方からコメントをさせていただきます。まず県内も含めたNPOの課題認識。これは行政の施策あるいは対応、あるいは中間支援組織、などの認識が非常に的確に出されているということが第一点ございました。そして、それぞれ中間支援をするNPO、たくさんのNPO、いろんな多種にわたるNPOがある中で、特にプレゼンの中で、その対象について、選定の対象について、雇用と、雇用の促進につながるという部分を明確に回答していただけた。こういうところが非常に評価されているところでございます

ただ、一点、冒頭に会長からもお話をさせていただいたとおり、基金21の事業につきましては、それぞれ条例ですとか、あるいは関係の要綱などをもとに透明な形で資金を出させていただいておりまして、その中で特に、市町村行政、NPO担当セクションですとか、そういったところへの支援というのは対象外ということでございます。ですから、今後、行政・市町村と中間支援組織との関係だとか、そういった中身、趣旨は非常に審査会の中でも評価されておりますので基本的な趣旨は変えずに、詳細・事業の中身についてですね、若干事務局とつめていただきながら、対応が可能かどうかということも含めて調整をしていただきます。

最後に、一部の事業を委託されている部分がございます。大学関係あるいは証券関係、金融関係の部分ありますけども、それぞれ、また特性を活かした形で、大学あるいは金融関係の方々との連携による事業となっておりますので、是非選定にあたりましてはその特性が活かされるような形で、それぞれの活動団体を選定していただきまして、うまく連携しながら成長支援という事業を目標に沿って展開していただければと、ということで私のコメントとさせていただきます。以上でございます。

【基金事業課長】次に、ICTツールとデータ活用を軸にしたファンドレイジング力強化支援事業について茨木委員からコメントをお願いします。

【茨木委員】プレゼンテーション力を大変発揮されて、みなさん本当に自分も学びたいというほどの評価でした。

本当に、本当に最後まで僅差というか、まったく違う支援事業なのに、ひとつしか選ばなければいけないというところで私たち悩みました。

焦点化されたスキルアップを目指す。ICTツールを使った研修事業ということで、目的も非常にはっきりしていますし、プログラムも既に完成されていて、採択されたら、たぶんすぐにやれる事業というところで大変評価も高かったです。

そして、ただひとつ、県が一年にひとつだけ選んでお金を出していくということに関していうと、スキルアップの前に、NPO団体が、ロードマップを描いてゴールをどこにするか、そのところですごく迷っている団体が多いので、スキルアップだけではない、もちろんこの計画もそれだけではないんですが、そこにどう関わっていくかというところがもう少し明確に出ているとよりよかったかなという意見もありました。

それから、第一回目の共感ツールをやられていて、その結果がどうだったか。それを例えば数字というような形で出していただけると、より今回の成果にどう

つながるかというのが見えてきてよかったんじゃないかという意見もありました。ただ、いずれにしても、今まさに欲している団体が、ICTツールを使って自分たちの発信力をつけたいというところではみなさんニーズが大変あるものだと思いますし、県の事業じゃなくても、そういう研修を受けたいというNPOは多いと思いますので、是非、独自事業としてやっていただくということもありなんじゃないかという、有料であったとしても受けたいというNPOはたくさんあるんじゃないかという意見もありました。

ということで本当に申し訳ないんですが、一箇所ということで、以上のような評価ということで今回は見送らせていただきました。是非また頑張っってチャレンジしていただければと思います。

【基金事業課長】ありがとうございました。次にボランティア団体の活動基盤づくりと成長のための地域アセスメント力支援事業について服部委員からコメントをお願いします。

【服部委員】はい。

こちらの団体のキーワードが「地域を知る」ということだったと思います。これに関しまして非常に共感をしたところですよ。実際、地域に密着した団体さんがやはり多いと思うんですね。そういった団体さんが地域の中でいろいろ伸び悩んでいるとか、課題を多く抱えていらっしゃると思います。そういった方々に寄り添っていこうというような提案のように見受けられましたのでその部分は非常に評価させていただいています。つまり、地域の見直しということと組織の見直しということを図る機会を提供していただけるのではないかと期待を持たせていただきました。

しかしながら、いくつかの疑問も生じました。

地域の中でつながりを強化する必要というのはずいぶん多く言われるようになってきているかと思しますので、そういう問題意識を持っている方たちとどのように連携をされていくのかなと。おそらく新しくいろんな団体が出ているかと思うんですが、そういう人たちをどう取り込んでいくのだろうかというところがまだ見えなかったかなと。

もうひとつ、最も大事なことなんですが団体の強みが活かされた提案なんだろうかというところに疑問を生じました。もっと特定の地域の小さな地域の中で地域福祉をどうやっていったら団体がもっと強くなっていくのかと、いうようなことが明確であればよかったかなという感じがしています。その上で、もう少し印象を述べさせていただきますと、地域診断の部分は一団体がやるというよりも、むしろ協働によってどちらかの団体と一緒にやった結果どうです

よということ。あるいは地域の中の同じ同一の地域の中の複数の団体が一緒になって地域を見直す機会にこのツールをお使いになった方がよかったのではないかと印象ですね。

更にですね、このツールの良さはなんなんだろうというところは、書類上は推測できるんですが、やはり、いくつか、いや、もう少し多くの地域で実績を積んでいただいて、その結果こういう風に使われていって、こういう風に団体が変わっていったと、というようなそういうサンプルでも教えていただい方がですね、それがもっと広くやっていただけるのであればいいなあという風にこちらとしては思えたのではないかと思います。

よってですね、次に期待して今回は見逃させていただいたというのが本当に正直なところですよ。これは審査員一同その気持ちをお伝えしたいと思っていますので是非がんばっていただきたいと思っています。ありがとうございます。

【基金事業課長】最後に全体の講評を長坂会長からお願いいたします。

【長坂会長】 遅くまでありがとうございます。

中間支援の、成長支援についてはこれで3回目の審査になります。先ほど申しましたとおり私たち自身も勉強させていただいてありがとうございます。私たちが審査するにあたってですね、今回はいくつかの新しい問題意識もありました。

1番はファンドレックスさんの場合には、本当にICTの使い方がNPOはまだ定着していない。しかも2014年に新しくすごいことが起きている。それは一刻も早く神奈川県地域のNPOのみなさんに知っていただいて強化してほしい、というその気持ちにとっても打たれました。それがひとつの議論のベースとして、私は、ファンドレックスさんをお願いすれば成果が挙がることは間違いないだろうということは、確信はできました。

しかしあと2件について、私たちはいろんな新しい問題意識ということもとても意味があるのではないかと。私たちがNPOセクターの問題として、資金の不足と人材の不足が2つ問題とされますが、やはり基本的に社会から信頼されるということはとても重要なことで、それが必ずしも十分でないので、依然として私たち一般はですね、NPO活動はいいことやるけど、といいながら「敬して遠ざける」という日本の風習を破れないでいる。そういう意味では、日本のNPO市民社会活動それ自身が大きな壁にぶつかっていて、その壁を乗り越えてもらうために本当にみなさんのような中間支援団体の活動ってとっても重要だと思うんですね。そういう意味で私たちの成長支援事業はとても重要なものになりつつあるなあというのを、実感しております。

1件しかとれないこと自身も再検討した方がいいんじゃないかなと思っており、先ほど話がありましたように、県の条例も大きく改訂すべき時代に来たんだなあ、ひとつの、NPOができた以降の流れの中で大きく時代が変化しているなあという感じを受けます。

そういう中で、私たちも中間支援組織のあり方について、もっと問題意識を広げていくというところにもとても興味があります。

今回の関内イノベーションイニシアティブの場合には、中間支援組織自身にソーシャルビジネス的なセンスが不足しているところに大きな乗り越えるべき壁があるんじゃないかという問題意識をお持ちであり、社会的弱者の参加の入り口として、ソーシャルビジネスをしっかりと捉えておられたのでそういうことも踏まえて、NPOがそういうセンスを持ってると同時に、支援団体全体が改革していく必要があるんだという時代になったんだなあ、そこまで問題意識上がってきたんだという、そこをしっかりと捉えていただきましたし。

それから地域診断については、よこはま地域福祉研究センターの地域診断というのを、本当に全てのNPOが地域診断手法を手にして、それに沿ってニーズをしっかりと把握して取り組んでいく、ということが当然必要なんだという、そういう各論の時代にNPOの経営力を強化するうえにはやっぱり私たちも壁を乗り越えるために来たんだなあという風に感じました。

みなさんの御提案についてはどれも採用したいところなんです、今回特に1件に選ぶのにとっても苦労しました。

今回5つ、皆さんの提案は、あと、2件ありました。それは日本サードセクター経営者協会からの「ツリー型ロジックモデル」を普及させていく、それから税理士による公益活動サポートセンターの会計業務を強化していく。それもとても意味のある重要なことであると思います。

だからなおさら、経営者の方々や会計士の方々やみなさんのような専門家の方々が、NPOセクターの壁を乗り越えていくために、みなさんが私たちの事業を通して支援をしてくださろうとしている。これ自身が神奈川県資産なんだなあという風にとっても強く感じましたし、残念ながら全部の採択はできませんでしたが、どうかこれからも、今回は1件しかありませんでしたが、これからも引き続きみなさんの御尽力をいただきたいし、私がお願いする以上にみなさん自身が日ごろそういう活動をしてらっしゃるので何をかいわんや。どうか日本というべきか神奈川県NPOセクターの拡大充実のためにこれからもどうか力をお貸しいただければと思います。

今日は本当にどうもありがとうございました。

【基金事業課長】 ありがとうございました。それではこれを持ちまして公開

プレゼンテーションを終了させていただきます。ありがとうございました。

（審議事項2 平成26年度ボランティア活動奨励賞の表彰対象選考）

（基金事業課長から以下について説明）

- ・ボランティア活動奨励賞の応募状況（資料5）
- ・ボランティア活動奨励賞の来年度予算額と採択数
- ・表彰式日程

（事務局から説明）

- ・幹事会事前調査結果（資料6、7）

（委員による審議）

・審議の結果、横浜障害児を守る連絡協議会、特定非営利活動法人難民定住援助協会、NPO法人子育て支えあいネットワーク満、特定非営利活動法人ギャンプル依存ファミリーセンターホープヒル、馬入水辺の楽校の会の5つを選考した。

（その他）

・平成27年度協働事業負担金の協議対象事業と選考された事業の協働部署との協議状況について事務局から報告。

（閉会）

【かながわ県民活動サポートセンター所長】 毎回、長時間、厳しい審査をお願いしてしまっているが、年末の土曜日にありがとうございました。

基金21の制度は定着・充実してきているものの、厳しい意見も含めさまざまな意見が庁内にはある。

基金は、財政が厳しくなるということを想定して作られた制度。そういう意味では、この仕組みを根本から変えるということは考えていない。

一方で、さまざまな見直しをしていく必要もあるので皆さんの知恵をお借りしていきたい。

本当に長時間、真剣な議論ありがとうございました。よいお年をお迎えください。